

宮代町立小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会 視察研修記録

日時	平成 25 年 11 月 19 日 (火) 8:00~17:30	会場	茨城県稲敷市、牛久市
出席	船橋会長、野口副会長、和井田委員、上田委員、上野委員、鈴木委員、飯山委員、平井委員、唐沢委員、高柳委員、山内委員、山田委員、高田委員、宮部委員		

【内 容】

1 稲敷市での視察内容 … 別添「審議会視察研修 次第」「稲敷市配付資料」参照

視 察 メ モ

きっかけ

- ・着手したきっかけは「児童生徒数減少」。茨城県では「学校適正規模」を示しており、また一部校では「複式学級」が生じていたことも動機となった。
- ・また、合併（H17）後の、行政界の変更と経費削減も要素のひとつ。
- ・当初から「統合」だけを目的として進めたわけではないが、アンケートなどを経て児童生徒の減少と適正規模から導かれた答えが「統合再編」。



市役所庁舎

地域住民との対話

- ・進める過程では、「保護者と教委の情報共有」「市民の不安に向き合うこと」が大切。また「できること」、「できないこと」を明確に説明すること。
- ・パンフレット等の資料だけでは伝わらない、直に対話すること。
- ・イメージ、シミュレーションによる具体を持って説明に臨むことが大切。

学校建設にあたり

- ・新校建設にあたっては、子どもたちから「校舎の希望」を募った。
- ・また、大学工学部との連携により、ワークショップを開催し、設計を実施。
- ・廃校跡地の活用については現在検討中。
- ・統合新校には「各校の風景を残す（植樹など）、記念誌、CD作成、閉校時の校旗返納、記念碑など、地域の声を聞いて実践していく。
- ・小学校の保護者が不安を感じていた。
3校合同で宿泊訓練をしたところ、子どもたちが仲良くなり、保護者が安心を持った。



再編後の感想

- ・子どもが増えると、例えば「校内でサッカーができなかった子どもができるようになる」、「合唱する児童の数が増えると歌声もきれいに聞こえる」など良い面も。

視 察 メ モ

新設校

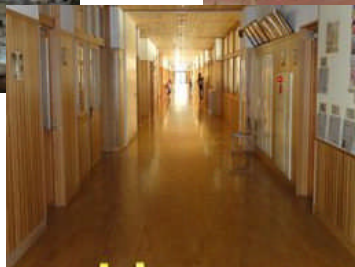
- ・人口急増地域のため新設校として設置、今年開校4年目を迎える。
- ・現在も児童数の増加は続いており（毎年100人規模）、校舎を増築。



「木」を使用した校舎
宮代町庁舎も視察したとか

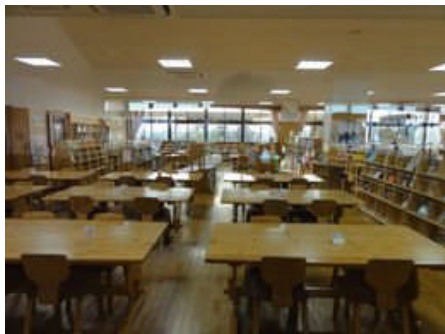


芝生の校庭



地域開放を実践

- ・「体育館」の他、「音楽室」「図書室」「図工室」「家庭科室」も地域開放。
- ・校舎の地域開放の受付、管理に常時2名を雇用（シルバー人材センター）



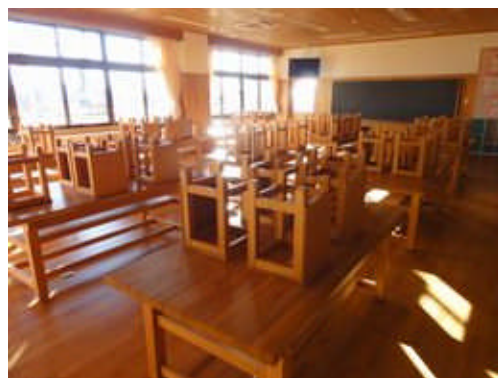
図書室



ミニコンサートも出来る音楽室



家庭科室



図工室



体育館

奥の倉庫は、学校用と開放用を別に用意

室内プール

- ・敷地内に室内温水プールを建設。
- ・プール入り口、駐車場は学校施設と分離して配置。
- ・プール運営は地元 NPO により行われ、各種水泳教室が展開されており、この日も幼児と保護者でにぎわっていた。



通学区域の見直し 資料 4 参照

- ・児童生徒数の偏りに対応するため、平成 25 年度から一部通学区域の変更を実施。



視察風景



屋上の太陽光パネル



校庭の一角に併設された公園



明るい昇降口